



大学・高専に行ってみた

JR旭川駅や買物公園沿いの商業施設を訪れると、机・椅子のある自由スペースで高校生が熱心に勉強している姿をよく見かけます。一方で、当地の大学生がどのあたりに「出沒」しているのかはなかなか見えずらい気がします。

ならばこちらから、という言い過ぎですが、少し前に旭川医科大学の

学生に向けて、ゲスト講師として金融経済や日銀のことなどをお話させていただく機会を得ました。また、旭川市立大学経済学部との成果発表会や旭川高専生による成果発表会(AI活用セミナー)にも出席してみました。学生の皆さんは非常に熱心だったほか、プレゼンテーションも実に堂にいったもので、ふと自分が学生の頃を思い起こすと恥ずかしくなる思いです。

また、学生等の組織レベルでは、「旭川ウェルビーイング・コンソーシアム」が設立されており、地域への貢献が期待されています。具体的には、旭川医科大学、北海道教育大学旭川校、旭川市立大学、同短期大学部、旭川工業高等専門学校の

「5つの高等教育機関が連携し、実践力のある地域人材を育成、旭川の地域振興の発展を目指す」とされています。

現在、地域を巡っては、人口減少などに伴い、地域医療や地域経済・社会、さらには人材の育成・供給などの面で様々な課題が浮上しています。しかも、こうした課題は完全に独立して発生しているわけではなく、相互に影響し合いながら問題を増幅したり、複雑にしている部分があるように思えます。それだけに、それぞれの分野で強みを持つた教育研究機関が垣根を超えて連携し、知見などを共有することの意味合いは一段と大きくなっていると言えそうです。

また、こうした課題の解決に向けて、AIなどの新たな技術も近年、注目度が高まっています。

先日(旭川ではありませんが)道内にあるシステム情報科学分野の公立大学を訪問する機会がありました。学生・院生、教員が、数理モデルやAIなどの先端技術を活用しながら、例えば、需要予測の精緻化、医療技術の高度化、水産資源の的確な管理、地域交通システムの設計といった実に幅広い分野に取り組んでおり、可能性の広がりやそれに裏打ちされた学内での活気を強く感じました。

また、こうした課題の解決に向けて、旭川市内の大学関係者からお伺いした「地域への貢献を進めていくためにも、最先端の研究に取り組んでいくことが大切」という一言は大変印象的でした。私が正しく理解できているのかは、やや心もとないのですが、確かに、地方部に行けば行くほど「先進的な」課題に直面しているという側面があり、それに対するためには、それぞれの専門分野でしっかりと研究に取り組む必要があることは想像に難くありません。同時に、そうした研究を通じて、学生や教員が「ここにいて世界(や全国)と戦える」と思えることが、大学の魅力向上や知・人材のハブとしての機能度向上につながっていくように感じました。

当地の課題解決と大学等の魅力向上が、相互に影響を及ぼしながら地域の発展につながることを期待したいと思えます。(毎月第四週に掲載します)



【足立祐一(あだち ゆういち)】一九七三年、大分県出身。九州大学経済学部卒。金融市場局企画

役、国際局企画役、ドイツ・フランクフルト事務所長、調査統計局地域経済調査課長を経て、二〇二三年、旭川事務所長に就任。